

早稲田大学学位審査論文

博士(スポーツ科学)

概要書

中学校体育授業における外部指導者の有効性と導入方法の検討

— 現代的なリズムのダンス授業を事例として—

Introduction Method and Effectiveness of Outside Teacher for
Physical Education in Junior High School:
A Case Study on Modern Rhythm Dance Class

2016年1月

早稲田大学大学院 スポーツ科学研究科

望月 拓実

MOCHIZUKI, Takumi

研究指導教員: 作野 誠一 准教授

【序論】

2012 年度より中学校体育において必修化されたダンスは、必修化に対応しきれない教師の指導力不足から外部指導者の活用がみられる。しかし、ダンス授業に外部指導者を導入する際には、「人材の問題」「指導の問題」「財務の問題」という3つの問題が存在する。従来から運動部活動における外部指導者の導入問題は研究対象となっている。正課教育であり、必修科目となったダンス授業への外部指導者導入に関わる問題の解決も同様に解決すべき問題といえる。

以上の背景から、本研究では正課教育における外部指導者導入に関連する「外部指導者」「学校」「自治体」の3者間に存在する問題点を明らかにし、解決策を提案することを目的とする。

【先行研究】

先行研究では、「現代的なリズムのダンスに関する先行研究」「外部指導者に関する先行研究」を整理した。

現代的なリズムのダンスの先行研究では、他のダンスと比較して歴史が浅いことから指導内容が定まっていない現状が示された。特に、「自由に踊る」という学習指導要領で示されている学習内容に多様な解釈が生まれ、現在まで一定の見解が示されていない。また、現代的なリズムのダンスの授業評価指標では、「踊る」「創る」「観る」の3要素が必ず含まれており、「態度」「知識、思考・判断」に相当する項目をどう構成するかが重要であることが明らかとなった。

外部指導者の先行研究では、運動部活動・正課教育における外部指導者の先行研究を概観し、外部指導者を導入することによるメリットとデメリットが示された。また、スポーツ指導者・外部指導者の資格の先行研究を概観した結果、学校スポーツが他のスポーツと比較して資格保有が義務化している傾向が明らかとなった。また、ダンス指導者資格と考えられる資格が散見されるものの、実態が明らかになっていないことも指摘した。

【研究方法】

従来、外部指導者問題で議論されてきた「人材の問題」「指導の問題」に加えて、「財務の問題」を取り扱う理由を説明し、本研究の基本的立場を示したうえで研究の枠組みを提示した。これまで議論されてきた外部指導者問題に加え、「教育マーケティングの視座」「学校予算裁量拡大の視座」から考察すると、学校の運営を維持する公教育の財源に限界がきている可能性が示唆される。そして、学校教育の「公共性」を維持するために、指導者資格を付与し、外部指導者を派遣する「仲介組織」と仲介組織の活動を支える「支援組織」を用いた新しい外部指導者の導入方法の枠組みを仮説的に構築し、実証を試みた。

【研究1：現代的なリズムのダンスにおける指導者資格の検討】

ダンス指導資格を付与する団体の中から、学校体育に対応した資格を付与する団体を抽出した。ついで、2団体に対するインタビュー調査を行い、「学習指導要領」「資格の効用」という視点から比較検討した結果、両団体が付与する資格の特徴・学校体育への適格性が明らかと

なった。

【研究2:現代的なリズムのダンス授業における外部指導者導入の有効性】

ダンス授業における外部指導者導入の有効性を検証するため、同一環境下・同一プログラムのもと、外部指導者を導入していない授業と外部指導者を導入している授業を比較検証した。比較の結果、外部指導者を導入した授業において「楽しさ」「創作」の部分で高い授業評価を得られたことから、外部指導者を導入する有効性が示された。

【研究3:現代的なリズムのダンスにおける新たな外部指導者導入方法の検討】

研究方法で示された「仲介組織」(資格付与団体)を支える「支援組織」に対しては、支えることの価値を提示する必要がある。そこで、「教育マーケティング」「教育CSR」「学校内マーケティング」の先行研究から、支援組織が仲介組織を支えることで得られる価値を示す方法を検証した。結果、米国で実施されている学校内マーケティングを適用し、支援組織に対するブランドコミットメントの向上を測定することによって価値を示すこととした。実際のダンス授業にて学校内マーケティングを実施したところ、支援組織が持つブランドに対する子どもたちのコミットメントが有意に向上し、仲介組織の活動を支える価値が示された。

【結論】

従来の外部指導者導入方法では、「市区町村」と「外部指導者」間において外部指導者を導入する方法が確立されていないという「人材の問題」と、外部指導者に対する報酬を確保できない「財務の問題」が存在する。また、「外部指導者」と「中学校」の間で、外部指導者の学校体育における適格性という「人材の問題」と外部指導者の導入が本当に授業に有効なのかという「指導の問題」が存在する。本研究では、以上4つの問題点を解決するために、外部指導者を中学校のダンス授業に派遣し、外部指導者がダンス指導に適格性を持つ指導者であることを示す資格を付与する仲介組織を介入させた。その結果、「人材の問題」「指導の問題」を解決することが可能となった。しかし、仲介組織が活動を続けるためには、仲介組織の活動を支える支援組織の存在が不可欠である。仲介組織の活動を支える支援組織の存在によって「財務の問題」を解決することが可能となる。

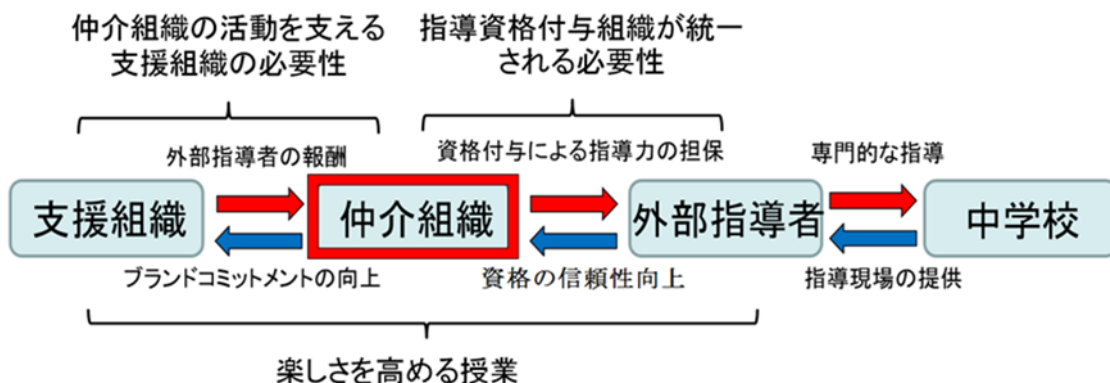


図 新しい外部指導者の導入方法